



6年生の堂々と踊る姿に感無量！！ = 1～5年生は伝統を守る決意新に =

12月8日、「獅子踊り引き継ぎ発表会」を行いました。お忙しい中、来賓や保護者の皆様においでいただき、心より感謝申し上げます。

発表会は、とても緊張感のある厳かな雰囲気の中で行われました。体育館いっぱい響き渡るかけ声や太鼓、竹の音。子どもたちは最初から最後まで、真剣に踊り、演奏しました。観ている方は、その一生懸命で真剣な姿、そして、今までの練習場面が思い起こされ、その成長に心が震えました。



6年生と5年生の^{かしら}頭のあいさつでは、「憧れ」「努力」

「自信」「感謝」というキーワードが共通していました。先輩の姿に憧れ、練習を頑張り、教えてくださる地域の方々に感謝して、伝統を受け継ぐ気持ちがさらに高まる。そんなよい関係が東栄小学校には構築されています。

獅子踊りは、豊作を願って神社に奉納されたもので、江戸時代から地域に伝わっています。途中、十年近く途絶えていた獅子踊りを青年部の方々が生き返らせ、二度と獅子踊りが消えてしまわないように、子どもたちに教えることとなりました。これが今から30年前の1993年のことです。神社の方、学校の先生、PTAの保護者会の人たちが一緒になって何度も話し合い、当時の藤島町立東栄小学校で獅子踊りを学習に取り入れることになりました。

「サケが生まれた川にもどってくるように、子どもたちにもこの土地の自然と文化を、生まれた川のおいのように伝えたい」という願いで、青年部の方たちは、忙しい仕事の合間をぬって、子どもたちに獅子踊りを教えに来てくださいました。東栄小学校で初めて獅子踊りを習った男の子は、「東栄小の獅子踊りが、これから百年、いや二百年続いてほしいです。そして、ぼくが、おじいさんになった時、東栄小の獅子踊りを見たいと思っています。」と作文に書きました。また、ある女の子は、「わたしは、獅子踊りをやってきてよかったと思いました。これから引き継いでいく人たちには、わたしたちの何倍も上手くなってもらい、山形県の人たちに、獅子踊りのことを知ってもらいたいなあと思っています。」と書きました。

皆さんの先輩たちが、一人一人それぞれの思いを抱いて踊ってきた獅子踊り。東栄小学校の子どもたちしか踊れない獅子踊り。この世界にひとつしかない文化を、これからも大切に引き継いでいくことができる幸せ…。

「獅子踊り引き継ぎ発表会」では、一人一人の表情や立ち振る舞いから「伝統を受け継ぐぞ！」という強い心意気を感じました。大切な伝統芸能を継承し、ふるさとを誇りに思う心、相手を思いやる心、今自分が生きていることの幸せと喜びを獅子踊りで表現するとともに、地域の人たちの幸せを願う心。



このように、獅子踊りには、たくさんの心が込められています。

これからも、大切に大切に伝え続け、東栄小学校の児童の皆さんと東栄地区の皆さんのさらなる発展と幸せな未来を祈念しております。

最後になりましたが、獅子踊り振興協力会の指導者の皆様、4・5年生の保護者の皆様には、お忙しい中、夜間練習へのご協力をいただき、心より御礼申し上げます。